

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくれます	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	整備時期は未定であるが、整備の目安が付いた段階で、整備方針等の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討を行うことができていない。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流末としての施設の確保及び流下能力の向上等を目的とした暫定改修や、上流域の流末としての機能確保のため、50mm/hrの降雨に対応した改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流の整備が進むと、市域の河川施設について将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	松戸市主体により実施している、紙敷川改修事業において、2年間の継続費設定とした、L=76.8mのうち、平成30年度分の河川改修工事が完了した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	主要な水路の暫定改修実施率	6.5	6.5	6.5	%	業務取得
	ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.6	2.6	2.6	%	業務取得
	iii	浸水面積(河川水路)	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	1,482	2,784	金額(千円)	内容	6,260		
国支出金(千円)	0	0	2,784	平成30年度紙敷川改修事業負担金	0		
県支出金(千円)	0	0			0		
市債その他(千円)	0	0			0		
一般財源(千円)	1,482	2,784			6,260		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	下流河川の整備の目安がついていないため、50mm/hrの降雨に対応した整備に取り組めていない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、費用対効果を考慮した暫定改修については実施する必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	紙敷川改修負担金	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	紙敷川改修負担金	3,573	5,267	当初	3,573	2,784	H29からの繰越	1,694
				H29⇒30繰越	1,694		現年分	1,090
③達成状況	未完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	松戸市事業である紙敷川改修工事はR1へ繰越したため。			流用・充当	0			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				2,424		

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	下流河川の整備が進んできたことにより、上流側でも将来形の整備を行っていく。また、暫定的な整備を行うしかない箇所では、将来的な整備を考慮したうえで、効果的な手法の検討を行う。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取組み結果	下流河川の整備が進み、上流域において将来形の整備を実施しているところである。また、浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	流下能力の向上と護岸の保護を目的とした暫定改修や、50mm/hrの降雨に対応した改修などの計画策定を行い、上下流の状況を考慮し段階的な河川の改修を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。下流側の整備が進んでいる場所もあり、市域の河川整備が可能な場所もある。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> 準用河川二和川護岸改修(第31期)において、L=15.0mを改修した。 準用河川二和川バイパス整備(第2期)工事において、L=42mを整備した。 準用河川二和川バイパス整備(第3期)工事において、L=44.8mを整備した。 						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	暫定改修実施率	21.7	21.8	21.9	%	業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.4	11.4	11.4	%	業務取得
	iii	浸水面積(1級河川、準用河川)	81.5	81.5	81.5	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	105,124	366,419	金額(千円)	内容		427,294	
国支出金(千円)	25,000	76,000	11,323	準用河川二和川護岸改修(第31期)工事		106,094	
県支出金(千円)	0	0	102,237	準用河川二和川バイパス整備(第2期)工事		0	
市債その他(千円)	79,103	224,186	110,036	準用河川二和川バイパス整備(第3期)工事		286,199	
一般財源(千円)	1,021	66,233				35,001	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	河川改修は下流から行うのが原則であるため、現時点で最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻りの無いよう実施する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	浸水被害により、市民の生命・財産に被害が及ぶ恐れがあるため、速やかに河川改修を行う必要性があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	二和川護岸改修(第31期)工事、二和川バイパス整備(第2期)工事、(第3期)工事、(第4期)工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	二和川護岸改修(第31期)工事、二和川バイパス整備(第2期)工事、(第3期)工事	256,383	623,907	当初	256,383	366,419	H29からの繰越	344,639
				H29⇒30繰越	367,524		現年分	21,781
③達成状況	未完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	二和川バイパス整備(第4期)工事はR1へ繰越したため。			流用・充当	0			
		令和元年度への繰越額(単位:千円)				105,382		

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	〇
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	過年度から進めている浸水箇所の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある場所を選定する。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	過年度から進めている浸水箇所の整備の進捗を図るとともに、最も効果のある場所における整備手法等の検討を行う。
②①に基づく取り組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	浸水被害の直接的な原因が地域排水施設の能力不足や未整備であるものについて、下流への影響を考慮しつつ、河川・水路までの施設整備を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況の変化により、雨水の流出量が増加し、接続する河川・水路の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> 馬込沢地区排水ポンプ設置工事にて排水ポンプを1箇所設置した。 雨水浸透柵設置モニター工事にて雨水浸透柵を15基設置した。 					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 整備工事完了・着手箇所数	21	21	22	箇所	業務取得
	ii 浸水面積(地域排水)	10	10	10	ha	業務取得
	iii 浸透柵設置基数	6,781	6,957	7,196	基	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	28,376	34,090	金額(千円)	内容	160,549	
国支出金(千円)	0	0	10,774	馬込沢地区排水ポンプ設置工事	0	
県支出金(千円)	0	0	720	雨水浸透柵設置モニター工事	0	
市債その他(千円)	14,400	18,900			83,800	
一般財源(千円)	13,976	15,190			76,749	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	治水対策として有効な事業であることから、放流先の整備状況や費用対効果を考慮し、事業を進める必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	馬込沢地区排水ポンプ設置工事、鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第4期)、東道野辺五丁目地区地域排水整備工事、整地工事、雨水浸透柵モニター工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	馬込沢地区排水ポンプ設置工事、雨水浸透柵モニター工事を完了した。	83,187	109,487	当初	83,187	34,090	H29からの繰越	11,202
				H29⇒30繰越	11,202			
③達成状況	未完了	83,187	109,487	補正	15,120	34,090	現年分	22,888
				流用・充当	-22			
④未完了・非着手の理由	鎌ヶ谷二丁目地区地域排水整備工事(第4期)、東道野辺五丁目地区地域排水整備工事、整地工事はR1へ繰越したため。	令和元年度への繰越額(単位:千円)		71,899				

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	〇
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	貞方 敦雄			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	過年度から進めている貯留池の整備の進捗を図るとともに、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行う。	③令和元年度に取り組む改革・改善内容	最も効果のある場所における貯留池整備に向け、土地の取得を行う。
②①に基づく取り組み結果	過年度から進めている貯留池整備について、進捗を図り工事を完了させた。また、現時点で可能な、最も効果のある箇所の選定を行い、今年度より新たな箇所の事業に着手することとした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図(対象をどうするのか)	河川の流量の調整を行う 雨水の流出を抑制する
②事務事業の概要	浸水被害を軽減するために必要な、河川調節池の整備と流出抑制を目的とした調節池の整備を行う。整備にあたっては、河川の整備計画との整合を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	都市化の進展や集中豪雨などの気象状況変化により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後、下流整備の進捗により、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる、依然として浸水被害はあり、要望等が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	南初富二丁目貯留池整備工事(継続費)において、貯留池V=1, 100m3を整備した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i	河川調節池の暫定整備率	85.7	85.7	87.5	%	業務取得
	ii	河川調節池の整備率	57.1	57.1	57.1	%	業務取得
	iii	貯留量	40,421	40,421	41,521	m3	業務取得
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算		
事業費(千円)	5,792	126,968	金額(千円)	内容	53,684		
国支出金(千円)	0	0	126,831	南初富二丁目貯留池整備工事	0		
県支出金(千円)	0	0			0		
市債その他(千円)	1,300	95,100			38,100		
一般財源(千円)	4,492	31,868			15,584		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に整備可能且つ効果のある場所を選定しなければならない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	放流先の河川整備が進まない中で、浸水被害の軽減を図るため、雨水貯留地を整備することが最善の治水対策と考えられるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	南初富二丁目貯留池整備工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	南初富二丁目貯留池整備工事が完了した。	89,600	129,622	当初	89,600	126,968	H29からの繰越	40,000
				H29⇒30繰越	40,000		現年分	86,968
③達成状況	完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	-			流用・充当	22			
				令和元年度への繰越額(単位:千円)			0	

令和元年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	流域環境整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	2	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川管理課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	永東 昇			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	鎌ヶ谷市の河川等施設に応じた点検方法の制定。	③令和元年度に取組む改革・改善内容	鎌ヶ谷市の河川等施設に応じた点検方法の制定。
②①に基づく取組み結果	国基準の情報収集と動向調査		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	河川、水路、調整池	意図(対象をどうするのか)	施設の機能維持
②事務事業の概要	河川、水路、調整池の適正な管理を行うため、除草、清掃やパトロールの委託を行うとともに、必要な補修工事を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の老朽化が進んでおり、大規模な修繕とともに、長寿命化のための対策が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成30年度の事業の成果	○河川管理委託 ○河川・水路清掃委託 ○スクリーン清掃委託 ○河川・水路維持工事					
②成果を表す指標	指標名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	算定根拠
	i 河川・水路に対する満足度	—	—	16.0	%	市民意識調査
	ii 河川・水路除草面積	58,610	58,610	68,126	m ²	業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	平成29年度決算	平成30年度決算	平成30年度決算(事業費)の主な内訳		令和元年度予算	
事業費(千円)	27,871	26,533	金額(千円)	内容	33,370	
	国支出金(千円)	0	0	16,499	委託料	0
	県支出金(千円)	0	0	9,999	工事請負費	0
	市債その他(千円)	0	0			0
	一般財源(千円)	27,871	26,533			33,370

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化に伴う大規模な修繕や長持ちさせるための対策。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	法定管理者の責務として機能維持に努めることが必要なため				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成30年度の計画	河川・水路の清掃・維持工事	平成30年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	河川・水路の清掃・維持工事	26,604	26,604	当初	26,604	H29からの繰越	0
				H29⇒30繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	26,533
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
				令和元年度への繰越額(単位:千円)		0	